
宇宙人ジョーンズ

抹茶小豆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宇宙人ジョーンズ

【Nコード】

N2294I

【作者名】

抹茶小豆

【あらすじ】

宇宙人から見た日本文化：

というか下ネタに異様に反応する宇宙人の話。

(前書き)

後半下ネタがはいります。

15禁というほどでもありませんが、
キライな方はご遠慮ください。

スピーカーからは、砂嵐のようなノイズに混じって、微かな通信が聞こえてきた。

「太陽系 二 知的生物 ガ 生存スル
地球 ト イウ 惑星 ヲ 発見シマシタ」

グレーの肌に、ぎよろりと光る不気味な瞳。
身体は我々地球人よりも遥かに小さいくせに、腹だけが異様に大きい。

「どうやら宇宙人にも と があるらしく、
彼らは今大いに盛り上がっていた。」

「ジョーンズ サン ノ イイトコ 見テミタイ
アツソレ イツキ イツキ …」

ジョーンズと呼ばれる宇宙人は、たくさんの 宇宙人に囲まれ、琥珀色の怪しげな液体を飲み干した。
やんやの拍手喝采とともに、強烈な 宇宙人による求愛のコールが送られた。

「ステキ、天才、イイ男」

「オイ…ジョーンズ
返事ヲ シロ！」

ジョーンズはダルそうにスピーカーの上司に対応するべく腰を浮かした。

「ハイ、ナンスカ？」

「ダカラ、サツキカラ 惑星 ノ
発見 ニ ツイテ 報告シトルダロウガ！」

太陽系 ニ 知的生物 ガ 生存スル

地球 ト イウ 惑星 ヲ 発見シマシタ

「エースパイロット デ アル 才前 ガ 行ッテ
ソノ 地球 ト イウ 惑星 ノ 調査 ヲ
シテコイ！」

「エ？ ダルイ カラ 嫌デス」

「バカモノ！ 地球 ニハ ピッチピチ ノ
キレイ ナ 姉サン ガ 沢山 イルンダゾ！」

「ピッチ、ピチ ノ キレイ ナ オ姉サン」

ジョーンズは鼻からぽたぽたと、緑色の液体を垂らし始めた。

「鼻血ト ヨダレ ヲ 拭キタマエ ジョーンズ！」

「ワカリマシタ ボス スグニ 地球 ニ 向カイマス
私 ハ ヤル気 満々 デス」

ジョーンズの身体を青白い光の粒子が包み込むと、やがてジョーンズは人間の姿になった。

ボスと呼ばれる宇宙人から、地球の世界地図がデータで送信されてくると、ジョーンズは適当な位置に自分の指をおいた。くしくもそれは我が日本国を指していた。

「適当デ イイヤ」

ジョーンズがその場所に意識を集中し始めると、またも青白い光の

粒子がジョーンズを包み込み、その姿が宇宙船から消えた。

「浅草の雷門を歩く外国人観光客」

ジョーンズを見て誰もが思うことであろう。

しかし、真実は

「浅草の雷門を歩く宇宙人観光客」

それがジョーンズの正体なのだ。

ジョーンズはジーパンに「海人」と書かれた真っ赤なTシャツ姿で浅草を闊歩している。

ジョーンズはこの一週間でほぼ日本語をマスターしていた。

そして言語のみならずその生活文化さえもマスターしかけていた。

「侘び、寂、萌え」

ジョーンズは少し目を細め、ニヒルに呟く。

秋葉原のメイド喫茶でオムライスを食べた後、ジョーンズは銭湯へ行くことにした。

湯上りにフルーツ牛乳を堪能したあと、しばし入り口に置かれたテレビというものに見入っていた。

どうやら時代劇をやってるらしい。

「上様に、上様にお目通りを！」

スクリーンの中で着物を着た女が必死で叫んでいる。

ジョーンズの右の眉毛がピクリと反応した。

しかしそれ以外は、ジョーンズは己の動揺を悟られまいと必死に冷静を装った。

ジョーンズは深く瞳を閉じて己の中でその言葉を深く反芻した。

『お目通り…』

おめどおり…』

『オメ通り』とは一体どんな通りなんだ！

卑猥でいて、なんとも魅力的な響きだ。

大型店舗による進出で、日本の各地の商店街は寂れていると聞いた。しかし、そんな『通り』があるのなら、日本経済もまだまだ捨てたものじゃない！

かんばれ商店街!!!

不景気なんか『くそつくらえ』だ。

行ってみたい、

ああ行ってみたい。

黄金の国ジパング、幻のユートピア

『オメ通り』

ジョーンズの右の鼻の穴から、緑色の液体が一本流れ落ちた。

商魂たくましいこの銭湯では、番台の付近で子供用のおもちゃが売られていた。

それを目敏くみつけた一人の少女が、おじいちゃんと思しき老人にせがんでいる。

「おじいちゃん。

さそこ、この万華鏡ほしい」

『万華鏡』

それはまた、摩訶不思議な代物だ。

この国の産物『ドラえもん』ですらそんなアダルトな代物は持つてはいまい。

マンげ鏡…

まん毛鏡…

一体何が映るのやら…。

「はい、980円になります」

ついつい購入してしまうジョーンズであった。

ジョーンズは再びテレビに目をやった。

お決まりのお代官に、町娘が脅されるシーンだ。

「お…お代官さま

どうかお目こぼしを！

それがなければ、おっ父は…」

ジョーンズはわなわなと震えだした。

『お目こぼし…

おめこぼし…

オメコ干し！！！！」

そんなもの、一体どこで干しているというんだ。

ならばこんな会話が交わされていたりするんだろうか。

「あら奥さん、今日はお天気がいいから

オメコ干そうかしら」

それは、あまりに奥さん卑猥じゃない？

それとも、あれか？

漁村の海岸とかで、スルメとかと一緒に大量に干されていたりする
んだろうか？

どこの漁村だよ！

行ってみて…。

ジョーンズの左の鼻の穴からも、緑色の液体が流れ出ていた。

ジョーンズは自宅のアパートから、ボスの宇宙船に報告書を送った。

「太陽系 二 知的生物 ガ 生存 スル
地球ト イウ 惑星 ヲ 発見シマシタ。
彼ラ ノ 人道 ヤ 行動 ハ

我々 ノ 想像 ヲ 遙カ ニ 超エテ イマス」

(後書き)

ごはんライス先生と、ちょっぴりお疲れモードのお父さんたちに捧げます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2294i/>

宇宙人ジョーンズ

2010年12月7日14時36分発行